完成プロジェクト

響原復興住宅・みんなの家

1住棟に異なるタイプの住戸を組み合わせ、多世代の交流が生まれる「団らんの住まい」

住宅部分は、内縁、濡れ縁、庭の行き来により、近隣の方々がふれあい、お互いに助け合うコミュニティが生まれる「団らんの住まい」として計画された。「みんなの家」は和傘をイメージした柱梁で穏やかで華のある空間になっており、催しに対応したハレの場となる設定である。また、「大きな庭」は既存の公営住宅との拠り所となるようみんなの家を核とした中心性をもつ広場とした。多世代の交流の場となるようにとの願いが込められている。

- ●構造・階数　木造・地上１階
- ●延べ面積　1,511.53㎡
- ●設計者　工藤和美＋堀場弘 / シーラカンスK&H
- ●施工者　住宅／株式会社髙橋建設
  集会所／大和ハウス工業株式会社
- ●建築主　熊本県・宇城市
- ●発注者　ＵＲ都市機構
- ●竣工　2019年２月

シーラカンスK&H　工藤 和美 氏

活発な動きのある居間や水回り・玄関を南の庭側に配し、内縁⇔濡れ縁⇔庭へ開き、近隣の方々とふれあう、「団らんの住まい」を計画しました。庭を通じて近隣とふれあい、大きな庭では地域住民と交流できる計画としました。

シーラカンスK&H　堀場　弘 氏

みんなの家を核とした「大きな庭」と軒先空間をつくりました。みんなが寄り合う場所として、和傘をイメージした特徴的な木組みの構造が、地域の人々に愛されていくことを願っています。

発注者の声

ＵＲ都市機構熊本震災復興支援室　波多野 晃 氏

URでは自治体からの要請に基づき12地区453戸の災害公営住宅建設を進めており、当地区はその中で最初の竣工物件となります。KAP事業として景観や環境配慮に優れたものであり、住宅と併せ整備した「みんなの家」「大きな庭」が、地域の方々に活用されることを期待しております。

進行中プロジェクト

甲佐町住まいの復興拠点施設

自然と建築が一体となった熊本型の復興拠点

甲佐町役場に隣接し、都市防災公園と融合した配置計画で、災害公営住宅とみんなの家、子育て支援住宅が一体となっている。平成31年（2019年）3月には災害公営住宅部分とみんなの家が完成。現在、子育て支援施設と防災公園の工事が進んでいる。

- ●構造・階数　（災害公営住宅・みんなの家）木造・地上１階
  （子育て支援施設）RC造・地上３階
- ●延べ面積　（災害公営住宅・みんなの家）2,003.00㎡
  （子育て支援施設）1,987.92㎡
- ●設計者　岡野道子建築設計事務所＋
  ビルディングランドスケープ+ライト設計
- ●施工者　（災害公営住宅・みんなの家）
  山王株式会社
  株式会社ミヤデン機械
  藤本水道株式会社
  （子育て支援施設）
  株式会社松島建設
- ●建築主　熊本県・甲佐町

岡野道子建築設計事務所　岡野 道子 氏

仮設の暮らしを終え、ようやく定住できる住民の方々にとって、落ち着きがあり、自然を享受できる環境を確保しつつ、近隣同士で声掛けしやすいつくりにし たいと考えています。熊本県産木材をふんだんに使用した内部空間、南側のタイル貼りの土間空間も完成に近いです。現在工事の最終段階で特に植栽に力をいれています。

ビルディングランドスケープ　山代　悟 氏

被災そして不自由な仮住まいを経験されたみなさんに暖かい気持ちで使っていただける木をふんだんに使った設計です。八角形のお堂のような姿の「みんなの家」を集いの場として活用していただければ幸いです。

株式会社ライト設計　川邊　祐輝 氏

とにかく一度この場所を皆さんに見てもらいたいと感じています。建物や樹木の位置ひとつひとつに意味があり、小道の柔らかい風景や外壁の色・素材が住まわれる方の思い出に残っていければ幸いです。

KASEIプロジェクト

復興拠点施設のエンブレムづくりを手伝いました！

KASEIプロジェクト（九州山口を中心とした建築系大学の学生が、居住者と協力しながら応急仮設団地の支援活動を実施するプロジェクト）では、花壇や緑のカーテンづくり、家具づくりなどの住環境整備などの活動を行っている。８月には甲佐町住まいの復興拠点施設において、シンボルとなるエンブレムを甲佐町内の小学生が制作するイベントでデモンストレーションを行った。

九州大学大学院　人間環境学府　空間システム専攻　修士課程２年
河村 悠希 氏

住民の方が本当に必要としていることを自分たちで考え提案する大切さ、大変さを実感し、支援を行いながらも多くのことを学ぶことができました。今後は災害公営住宅への支援につなげていくことができればと考えています。